

生きている白山に学ぶ水と緑と防災

# 白山砂防通信



SABOは  
世界の共通語

2007 夏号  
VOL.14



## 土砂災害防止推進の集い(全国大会)in石川

『備えよう。明日は我が地域(まち)土砂災害。』をテーマに、石川県内で土砂災害防止推進の集い(全国大会)in石川(主催/国土交通省・石川県、協力/砂防フォーラムいしかわ2007委員会)が平成19年6月6日と7日、二日間の日程で開催されました。今回で25回目を数えるこの大会は6月の土砂災害防止月間にちなんだもので、石川県では初の開催となります。

初日の6日は金沢市観光会館(金沢歌劇座)で土砂災害防止推進の集いが開かれ、土砂災害防止功労者表彰式のほか、金沢市老人連合会代表、金沢市校下婦人連合会代表、金沢市立兼六中学校および市立城南中学校生徒による砂防や防災に関する意見発表、浅藤石川県砂防課長と蓮見金沢河川国道事務所長による県内の砂防事業紹介がありました。また石川県立中島高等学校・演劇コースの皆さんによる創作劇「守ろう!美しいふるさとを!」も上演され、東京の高校生と能登地方に住む祖父母、地元の高校生などに扮して今年3月に発生した能登半島地震や災害危険地域を語り合い、全国から集まった約1,900人の参加者に砂防や日頃の防災意識の向上について訴えました。



蓮見金沢河川国道事務所長による砂防事業紹介



白山砂防事業現地研修会(白山砂防科学館見学)

後半のフリートークではNHK解説委員の山崎登氏、金沢工業大学環境・建築学部の川村國夫教授、国土交通省砂防部長の亀江幸二氏、白山砂防女性特派員の山岸尚子さんの4名が能登半島地震や県内の土砂災害、それに対応する砂防事業や住民の防災意識などについて意見交換しました。

7日は現地研修会を開催し、白山の砂防事業や輪島市の地震被災地、羽咋市福水町の地すべり対策事業を視察しました。



特派員マスコット  
さぼちゃん

# 平成19年度 白山砂防 女性特派員

3月に新規メンバー9名を迎えて、平成19年度の白山砂防女性特派員活動が始まりました。

6月に開催された土砂災害防止推進の集い(全国大会)in石川では特派員の山岸尚子さんがフリートークで出演し、見事大役を果たしました。他のメンバーも会場案内や受付で活躍しました。



土砂災害防止推進の集い・フリートークでの山岸特派員

## 土砂災害防止推進の集い(全国大会)in石川 (6月6~7日)

第一日目は会場の行政担当受付をさせていただきました。ピーク時は大変忙しく、遠方からいらした方に少々笑顔が足りなかったのではと反省しています。二ヶ所受付が設けてありましたが、県市町村と国・他府県関係と分けてテーブルに表示した方がスムーズに流れたのではないかと思います。フォーラムも内容がとても充実していました。演劇、意見発表、フリートーク等、多彩で良かったです。

二日目は白山砂防の現地研修会。私達特派員は白山砂防科学館の館内展示の説明をするとのこと、少々あわてましたが参加者の方々の方が専門家であら

しゃるので私達は彩りにいるくらいでしようとの気持ちで対応したところ、何人かの方々が熱心にこちらの話を聞いてくださったので少しはお役に立てたと喜びました。ある方はあなた方はこの白峰の方？ どんなことをしているの？ これにはどう応じたの？ とか、砂防特派員に興味を示してくださいました。小さな事でも良いから広めることは必要だと思ってくださったのでしょうか！  
(松本特派員)



白山砂防科学館での展示物解説



会場受付



会場案内

## 土砂災害防止広報キャラバン隊 (6月12日)

今回は土砂災害防止月間広報キャラバン隊の隊長として白山市の関係各所を巡らせていただき、知り得た事がたくさんあって充実したものとなりました。

手取川流域で暮らすということは…。自然の恩恵を受けながらも、いつ起こり得るかもしれない水災害とは切り離されません。日頃から防災意識を持ち備えておくことは、万が一災害が発生した時に、被害を最小限にとどめられる鍵になるのだなと改めて感じました。

香林坊大和前での街頭PRは短時間でした。もう少し積極的に声かけを行えばよかったです。

梅雨入り直前です。自然に目を向け、特に山間地や土砂災害のおきやすいリスクの高い地域に生活するの方々には、山や河川、崖等に、意識して目を向けてもらえればと思います。

(河崎特派員)



石川県庁前でのキャラバン隊出発式



キャラバン隊隊長が市役所などを訪問



街頭での広報キャンペーン

### TOPIC

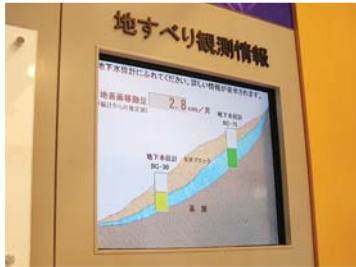
「白山砂防」のサイトができました！手取川上流域のライブカメラ映像や白山の砂防事業の概要、特派員活動などの情報をWEB上でご覧頂けます。

<http://www.hrr.mlit.go.jp/kanazawa/hakusansabo/>

# リアルタイム白山コーナー リニューアル!

平成19年4月に白山砂防科学館のリアルタイム白山コーナーが全面リニューアルされました。

37インチの大画面と白山の航空写真パネルで見やすくなった監視カメラ映像、各地の時間雨量や気象情報、甚之助谷の地すべり観測情報などの白山砂防情報がよりわかりやすく閲覧できます。白山登山前の情報収集などにもぜひお役立て下さい。



## 地すべり観測情報

甚之助谷の二つの水位計のリアルタイムデータと伸縮計から計算した地表移動量を表示。モニタにタッチすると水位計のグラフも表示されます。



## 気象情報

タッチモニタ採用で知りたい情報にすぐアクセスできます。北陸周辺のかみなり情報や夏山の天気などもチェックできます。



# 白山・手取川と生きる

…… 白山砂防 (3) ……

この欄では、「白山」・「手取川」・「白山砂防」について、順次紹介していきます。

## ◆ 明治時代の洪水と治水対策としての白山砂防事業の第一歩

明治時代の40余年間に手取川は出水をくり返し、そのたびにどこかで堤防が決壊、水害を被っていました。

1881(明治14)年の大洪水を契機に、石川県では手取川の治水対策の議論が本格化、1885(明治18)年には手取川を県直轄の河川とし、オランダ人技師デ・レーケを招いて県費を投入した堤防建設が計画されました。

しかし1891(明治24)年7・8月には連続で大洪水が発生するなど、水害は一向に減りませんでした。手取川堤防改修工事は右岸の七ヶ用水・左岸の二ヶ用水工事を兼ねて、1896(明治29)年より3ヶ年継続工事でようやく着手されましたが、同年8月にまた洪水が発生、未曾有の大水害となり、大半の堤防が決壊し計画は挫折しました。

これらの水害の原因は、白山周辺での山林の濫伐が進んだことと、明治24(1891)年の濃尾地震および明治29(1896)年の大集中豪雨で白山甚之助谷に大崩壊が発生したことが挙げられます。この頃の手取川水源地における崩壊地は20万坪に及んだと考えられています。

手取川流域のみならず、明治20年代は全国各地で大洪水が発生したため、政府は1896(明治29)年『河川法』を制定、翌1897(明治30)年には『砂防法』を制定しました。これにより、国庫金・国庫補助金で治水・砂防工事を行なう道が開かれました。洪水の多くが水源山地の崩壊を契機として発生していることから、1910(明治43)年、当時の李家隆介石川県知事は白山の柳谷を視察、崩壊状況を見てそのまま放置が許されないことを痛感し、翌1911(明治44)年より手取川治水の一環として『白山砂防』の調査に着手されました。

## 明治時代の主な手取川の洪水と地震

明治14年 (1881)	4月29日 ～5月8日	能美郡三ツ口村・岩間村・清水村など 46ヶ所の田畑で被害
	7月2日	能美郡粟生村で浸水家屋180戸
明治24年 (1891)	7月20日	170余年來の大洪水発生 堤防決壊、橋梁流失6
	8月16日	女原・五味島近辺で大洪水 白山から女原まで道路の欠損甚だし
明治29年 (1891)	10月28日	午前6時37分、濃尾地震発生 白山柳谷上流で大崩壊
	8月2日	白峰村で有史以來の大水害 白山甚之助谷一帯が崩壊(557ヶ所) 下流域でも死者73名、被害建物30,169棟
	8月31日	流域で死者4名、全壊家屋331戸
明治35年 (1902)	9月7日	流域で死者7名、 流失家屋9戸、全壊家屋323戸
	7月14日	堤防決壊、損壊家屋2,067棟

出典・参考「治水事業のあゆみ」(金沢工事事務所 昭和60年刊)

「手取川小史」(金沢工事事務所 昭和56年刊) 「白峰村史 上巻」(白峰村 昭和37年刊)  
「ふるさと石川歴史館」(北國新聞社 平成14年刊) 「石川県災異誌」(石川県 平成5年刊)

## ◆ 白山砂防無人化施工機械実演会開催 ◆



施工機械に付けられたカメラ映像をモニターで確認



リモコンでの機械の操作を体験

白山の砂防事業で使われている最先端の無人化施工技術を地元の子供たちに知ってもらおうと、平成19年6月13日に白山砂防無人化施工機械実演会が開催されました。この催しは白山での砂防事業に携わる企業7社の主催で毎年行われているもので、今回は白峰小学校4・5・6年生を対象に無人化施工機械の実演や操作体験や白峰砂防出張所や白山砂防科学館の見学を実施しました。

会場には実際に砂防工事に使用されている大型のリモコン式ラフテレーンクレーンとバックホウが設置され、児童が係員に指導されながらリモコンによる機械の操作を交代で体験しました。またその傍らでは機械に設置されたカメラ映像がモニターに映し出され、本来なら機械に搭乗しなければ見ることのできない映像に児童から歓声が上がっていました。白峰砂防出張所では手取川上流域各地の防災監視カメラ映像が映る大型マルチモニタを前に石川所長から白山砂防の解説があり、参加児童らには地域の安全を守る砂防事業についての理解を深める一日となりました。



白山砂防科学館横の会場の様子

## ◆ 白山市白峰地区で防災訓練 ◆

平成19年5月27日曜日に白山市白峰地区で梅雨前線による集中豪雨による災害が発生した想定での防災訓練が行われました。訓練には地元住民が多数参加し、逃げ遅れた老人の救助訓練や消防団による土のう積み訓練、国土交通省のリモコン式無人クレーンを使用した応急復旧訓練、非常食の配給訓練などが実施されました。

北陸地方は例年より遅く6月21日に梅雨入りし、雨の多い日が続いています。白峰地区では昨年7月19日に土石流が発生しており、また能登半島地震も記憶に新しく、地域住民には土石流災害に対する意識が訓練を通じてより深まったように感じられました。



地元消防団による土のう積み訓練

## ◆ 白山砂防科学館 平成18年度の見学者紹介 ◆

平成18年度の白山砂防科学館の総入館者数は約1万5千人で、平成13年6月の開館以来4番目に多い結果となりました。自治体主催のイベントや研修会などでの団体見学のほか、小中学校の見学申込み数も年々少しずつですが増加の傾向にあります。特に小学校5年生で学ぶ「流る水のはたらき」についての学習の一環として見学される学校が多く、昨年は小松第一小学校が文部科学省のサイエンス・パートナーシップ・プロジェクトとして当館の見学を取り上げていただきました。

18年度は館内での解説や映画上映・土石流模型実験の実演の他に、近辺の砂防堰堤や土石流跡の見学、百万貫の岩の見学などを館職員が随行して解説する機会に何回か恵まれ、見学者に非常に好評を得ました。今後もできるかぎり館外での見学にも対応していきたいと考えております。

### 平成18年度・小中学校の見学

川北町立中島小学校	4年生	12名
白山市立白峰小学校	5年生	20名
白山市立白峰中学校	1年生	11名
金沢市立弥生小学校	6年生	64名
小松市立犬丸小学校	5年生	18名
金沢市立米泉小学校	5年生	48名
能美市立粟生小学校	4年生	49名
石川県立明和養護学校		13名
金沢市立明成小学校		30名
小松市立第一小学校	5年生	100名
白山市朝日小学校	5年生	65名
小松市稚松小学校	5年生	90名

### ◆ 編集後記 ◆

3月25日(日)9時42分、M6.9の能登半島地震が発生しました。ここ白山砂防地域では、過去に近辺を震源とする地震(明治24年の濃尾大地震、昭和36年の北美濃地震)によって数箇所の山崩れが発生しており、その影響が心配されましたが、当日の11時30分には防災監視カメラで異状が無いことが確認され、さらに18時にはヘリコプターによる上空からの点検も行われ、白山周辺の安全を確認しました。

6月には石川県で土砂災害防止推進の集い(全国大会)も開催され、県民に土砂災害防止への関心が高まっていることが感じられます。この関心が日頃の備えへと繋がることを願います。

### ◆ 編集・発行 ◆

## 白山砂防科学館

毎週 木曜日 休館 入館 無料

920-2501 石川県白山市白峰ツ40-1  
TEL 0761-98-2990 FAX 0761-98-2991  
Eメール hakusan-jepo3.nsknet.or.jp